

葛飾区立綾南小学校の取組(愛称:わんぱく広場)

普通教室を転用した専用の「メインルーム」、「校庭」及び「体育館」の3箇所で、児童は活動しています。今日の児童指導サポーターは、リーダーの谷部 憲子さんをはじめとする総計7名です。

児童は参加する際、メインルーム前においてある出欠表に、今日の活動終了時間を記入します。併せて、自分の名前が入ったネームプレートを、メインルーム内の黒板に記載されている活動場所「メインルーム」、「校庭」又は「体育館」のいずれかの欄に貼ります。このことから、児童指導サポーターは一目で、児童が今どこで活動しているかがわかります。

また、児童は学年ごとに色が違う、自分の名前が入ったリストバンドを身に付けています。これにより、わんぱく広場に参加しているか、何年生かを区別できます。

児童指導サポーターは、メインルーム3名、校庭2名、体育館2名に分かれて、児童の見守りや指導を行っています。このような取組を通じ、子供たちが安全に遊べる場所を提供しているのです。

メインルームでは低学年の児童が遊具で遊んでいます。宿題を、児童指導サポーターに教わっている児童もいます。体育館ではバドミントン、校庭ではサッカーや縄跳びをして児童は遊んでいます。寒い日でも、子供たちは元気に遊んでいます。



○児童指導サポーター 谷部 憲子リーダーさんの話

- 綾南小学校の児童指導サポーターは、区内の他の小学校に比べ、保護者の方が多く、年齢層が低く、また女性の割合が多いと聞いています。
- 綾南小では、「わんぱく広場」実施以前から、PTAが保護者の輪番制による「校庭遊びの見守り」活動が行われてきており、もともと、保護者の学校活動への協力は熱心でした。「わんぱく広場」の取組は、これらの活動を引き継いだものとも言えます。
- 地域の方の協力も大きいです。町会関係者などの協力で下校時の子供の安全管理や不審者情報の共有など、非常に助かっています。このようなことから、「わんぱく広場」の取組は、いわゆる「地域力」の向上につながっていると感じています。

- 校長先生や副校長先生をはじめとする学校側の協力があるからこそ「わんぱく広場」です。学校関係者との関係が良好であることが、活動の土台となります。様々な面で、学校関係者がサポートしてくれています。
- 子供たちは、自分自身が主役でありたいようです。スポーツ教室などで「指導」をすると長続きしないことがあります。私は、今のような、子供たちが自由に活動する遊び場であるのがいいと考えています。正直な意見を言えば、指導の場ではないかもしれません。
- 子供たちが笑顔で遊んでくれているのが一番ですね。

○葛飾区子育て支援部育成課育成担当係長 大嶋 正さんの話

- 「わくわくチャレンジ広場」の取組内容は、基本的に各小学校に設置されている運営委員会、実際に指導される児童指導サポーターにお任せしています。
- 子供の登録参加状況ですが、全校児童のうち、登録をしている児童が約8割、そのうち約2割が日々参加している状況です。子供も忙しいですからね。週5日のうちの1日の活動場所として、「わ

- くわくチャレンジ広場」があることを知ってもらえればと考えています。
- 昔と違って、子供の遊ぶ場所が無くなってきています。公園で遊んでも、近隣の方から苦情があるケースもあります。私は、「見守り」とは、「子供を見守る」という意味よりも、「外敵からの見守り」と考えています。子供が安全で安心して、自由に活動できる場を提供することが何よりも大切なことです。

☆「わくわくチャレンジ広場」の詳細な内容は、葛飾区のホームページ

<http://www.city.katsushika.lg.jp/kurashi/012/001249.html>を御覧ください。